

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 来夢
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐世保市日野町732
記入者名 (管理者)	鴨川 美恵子
記入日	平成21年1月14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して暮らしていただく事を一日一日をその方らしく、又生き生きとした生活をいいただく事を目標としてつくりあげている。	「高齢者にとって大切な事」をテーマに全職員にてBS・KJ法にて解り易い理念の元日々への振り返り、又明日へのよりよいケアにつなげていける努力を行なっている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意味、理念の大切さを各自が理解し、一つの輪となり理念の実践に向けて取り組んでいる。	日々の振り返りを行いながらケアを行なっているがまだまだ充分とは言えず、更なる努力が必要。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方々、又、見学にお見えになる方等、理念を知っていただける様に常に公表を行なっている	地域の中での集まり等へ出かけ、その際にさまざまな内容をお話し、理解していただけよう取り組んでおり、ほんのわずかではあるがその手ごたえも感じてきている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物の時など気軽に挨拶や立ち話等行い、いつでもお越しいただけるよう声かけを行っている。	ご近所の方々とは事あるごとに挨拶や会話を心がけている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の班長を一年間努める。	地域密着型といった観点からも地域の方々へ少しでも貢献、交流できればと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方々に限らず道ですれ違った方々に対しても、歩行状態等つつい観ている自分達を感じている。常に異変を感じとれるアンテナを立てる事を心がける。		認知症サポーターとして、地域の中での専門として活動し、キャラバンメイトとして各公民館を回っているが更なる広がりに努める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により振り返りを外部評価のより、自信と元気とする気を持つ事ができ、更なるケアへつなげている。		本年度はリスク委員会を設置。リスクマネージャーを選出し、リスクへの取り組みを本格化している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域から2名、家族代表者1名、行政1名、知見のある方1名と5名の方々のご協力の元、状況報告、取り組み報告、又ご意見等をいただきながらサービスを行なっている。		運営推進委員会の中で依頼がある場合や老人会、集会時など機会ある事に当施設長が回っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健師等への相談や情報交換を行いながら、事業内容やケアへの相談を続けている。		1認知症介護の指導者として行政との連携を行っている(施設長)2.市の事業への協力を行なっている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	協議会等の研修に参加し知識の学び、身につくよう努力している。必要な方に対しての支援を行なえるよう体制づくりを行なっている。		現在のところ必要性のある方はいらっしゃらないが、いつでも支援できる体制をとれるよう研修等には参加している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が虐待についての研修に自主的に参加し、自からの言動が虐待につながっていないかを省りみるようよい機会となっている。		“ちょっと待って”と言う前に理由を先に伝えてを目標にやってきたが、まだまだ充分とは言えない。各自が意識していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の前に当所をご本人と共に見学していただき、納得していただける様にお話をしたり、書類に関しては熟読して頂いた上で説明を行なっている。</p>	<p>契約に対しては時間をつくり解りやすく、具体的な説明を行いご家族と充分なお話し合いをお願いしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現時点では特に苦情等はないがご本人の希望、要望等については十分に耳を傾け事業への反映につなげている。</p>	<p>めやす箱を準備し、又、月一度の家族への連絡の際“何かご要望ございませんか？”とお尋ねしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一度定期的に状況報告を行い同様に月一度グループホーム便りを出している。緊急時はその都度速やかに連絡報告を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在はありませんが面会時、月一回の状況報告時にヒヤリングを行っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その時その時で意見を出しあいながら反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ホームの職員にて勤務表を作成し、行事等に合わせ柔軟に対応できている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族にきちんと伝えていきます。その中でより解りやすく説明を行い納得して頂いています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長を中心に勉強会を3ヶ月に一度開催。ほぼ全員自主的参加を行なっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ブロックごとに開催される勉強会等に各自が自主的に参加。		自主的に各自が取り組み勉強やネットづくりを積極的に出来る体制を整えていく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	さまざまな機会を作り、ストレスケアに努めているつもりである。しかしあくまでもつもりである為、更なるケアを要すると思う。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々で取りくんで頂いている。環境への配慮についてはまだまだ努力が必要であると考えている。		各自の取り組みや実績、勤務状況の把握の徹底に努めていく。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「よりそう」ことを考えながら義務化、事務化しない声かけを行いご本人の思いを知る事を理念としている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご面会等を通じさまざまな事について、きさくに語り合う事からスタートし信頼作りから初めるように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅事業所との連携を図りながら行なっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験などグループホームとはどんな所？をまず知っていただき、雰囲気を味わっていただき利用を考えていただけるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえをしていただいたり、洗濯物を干したり、たたんだりして頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月々の状況報告を行いご本人の要望等をお伝えしたり、ご家族様のご意向をお尋ねしたり、お互いのコミュニケーションを図りながら支えあっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の状況やご家族様の事情等、細心の注意や配慮を心がけ外出、帰省・面会をお願いしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同郷出身のスタッフを担当者にしたり、方言を教えていただいたりしている。		ご本人のニーズに即、対応できない事も多だあり苦慮する事もあるが努力を重ねていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室に閉じこもる事がないよう季節に応じてフロアーの模様替えを行なったり、愛犬を交えたレクを行なっている。		アニマルセラピーにより皆さんの笑顔や会話が多くなっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会がある事にお尋ねしている料理の下ごしらえをして頂ながら又、ゴミ箱を作っていたきながら会話やスキンシップ等でのキャッチボールを行なうよう努めている。		充分とは決して言えないが常にちょっとした変化やしぐさの中に心の声を聞けるよう努力は惜しまない。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、お友達の方々等、様々な角度からの情報をいただくよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、昼食後のバイタルチェック、排泄状況の把握、食事摂取量、表情等、日頃の変化を素早くチェック出来るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まずはご本人の意向をお尋ねし、それに沿ったプランは何かをスタッフと話し合い、ご家族様のご意見等も加味しながらご本人中心のプランを立てている。		ご本人の意向の本当に沿ったプランなのかをそれぞれがチェックできるスタッフ又、それが言えるよう努力する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度都度に変化に即したプランを話し合っている。必要に応じてドクターにも意見をお願いしている。		担当者会議をその都度持ち、話し合っているが充分とは言えない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実行表、日誌に気づきを記入。個別記録に記入。		ケアプラン実行表には月末その方のプランについての評価を記入し次につなげている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	様ような機能を活かしているとは思えるがまだ充分とは言えない。		柔軟な支援体制に心がけ機能を充分発揮出切るよう努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練時は利用者に対しても解りやすく説明いただいている。ボランティアについても機会あるごとにお願ひしている。(夏祭り・敬老会・餅つき等)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援センターやケアマネージャ、他事業所とも常に連絡を取り合い連携に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターへの働きかけ等行いながら協働行なっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度往診を受けている。又、緊急時適切な対応が取れるよう連携を図っている。		医療関係との連携は密にとれており継続していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各専門医療への相談を予防(リスクマネジメント)をとらえ常に行なっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居されている方々の毎日の体調の把握を心がけ、ちょっとした変化でもケアスタッフである看護師に報告 指示		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	時間が許す限り面会に伺い医療スタッフとの情報交換を行い各人がご本人にとってよりよいケアの為に連携に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎える場所をグループホームでもとお尋ね頂いた時は、選択肢のなかに入れて頂いても良い事を伝えているがまだまだ不十分		ホスピスケアについての意識を各スタッフが持てるよう今後更に研修を行なっていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在までスタッフが経験しておらず緊急の場合がどうしても、医療機関に頼らざるを得ないのが現状		ご本人が終末期をどのように過ごされたいのかご家族のご意向はどうかを十分に検討し、ご本人の意志に添ったケアをDRに指示を仰ぎながらできるよう努めていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リスクマネジメントを行いダメージを防ぐ為に予防に努める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づいて対応を行なっている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の思いや意向を大切にし、その方にとってより良いケアを基に支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを考えその方の思いを理解し、ケアを行っている。	本当に理解できているのか疑問である。必ず振り返りが必要と考えている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1度の美容師さんの来所を楽しみにされている。ご本人さんの要望があればご家族へ協力をお願いしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	木・日の昼・夕食の下ごしらえ、各行事に出る料理の味付け、餅丸め等一緒に楽しんで行なっている。	昔の得意料理を作っていたらいい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒は催し物がある時のみでその他はご本人の好みで合わせ、できる限り楽しんでいただけるよう工夫している。」	大学イモやおはぎ等希望をお尋ねしながら、なるべく手作りの物を一緒に作ったり、いただいたりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	オムツよりトレーニングパンツへの移行をすすめている。自信がないと言われる方には排便時だけでもトイレ使用をすすめ徐々にオムツ外しを実現していく。		排便時 トイレ使用と徐々にトイレ使用の回数を増やし、オムツ トレパンへの移行の実現へ努める。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	その日のバイタル状態により、又ご本人の希望を確認し、入浴を楽しんでいただけるよう努める。		デイサービスのお風呂も時折利用。「広がった」と喜ばれる。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	フロアのソファでウトウトされたり、休みたい時は居室へ戻られたり自由に皆さんされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	犬と散歩されたり遊んだり、犬のフンや尿の処理をして下さったり、他の方の物の縫い物をして下さったりとそれぞれしていただいている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	買い物等ではご自分の財布からお金を出して支払っていただいている。小遣い程度は皆さんそれぞれ持っていられる。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	希望どおりは難しいが、なるべく希望に沿えるように努めている。		小雪のちらつく日でも外へ出たいと希望があればわずかな時間でも着込んで頂いて散歩している。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	木・日のデイの休みを利用して希望者を少し遠出のドライブにお誘いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対しては数回ある、地域の小学生へのお礼の手紙を書いたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関の施錠をせず(日中)自由に面会していただき、普段より、多くの方の出入りをして頂いている。		談話室等がないため、空間やお部屋での過ごし方ねの更なる工夫が必要があるのではないか
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての研修もおこなっています。意識として身体拘束はしてはいけないことと認識しています。本人の意志を尊重するという言葉の意味としても、身体拘束とはなにかを考えています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は危険性もあるため(防犯上)施錠していますが、家族からの連絡は24時間対応し必要に応じて、施錠管理を行なう。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動障害のある方については、家族の同意のもと、夜間本人の行動によりロックをせず、入室するばあいがあるが、他の部屋については、ロックをして、入室している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	集団ケアになりがちなケアを個別ケアへと行なっていますが、まだまだ、不十分である		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事業所の中で、リスクマネージャーを設置し閣員会で検討し、勉強会に繋げている。ひやりハットの活用		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会等へ参加、施設内での勉強会等行なっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年2回実施。地域の方々や消防署の協力を頂いている、又、地震や水害についても同じように避難場所や方法を教授いただいている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご面会時定期状況報告等、機会あるごとに現状報告し入居されている方の現状を理解して頂きリスクを知っていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、昼、食後のバイタルチェック、顔色、歩き方、話し方、目の充血等の有無等、スタッフが目配りを怠らないよう、又速やかに看護師等に報告を行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時は薬剤師からの説明等を行なってもらっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	何かにつけ水分補給を行ない食事の工夫等も行なっている。適度な散歩や運動も心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、誘導や介助にて口腔洗浄、義歯洗浄等行なっている。又食欲低下の有無や義歯の状態等の観察を怠らないよう心がけている。		定期的に歯科衛生士さんに来ていただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段に会話や残食等で嗜好を調べ、その方に合った刻み方や味付け、盛り付けを工夫している。		水分の摂取量を注意している。特に冬場は摂水が少ない為何かにつけ摂水していただいている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防や対策について研修会に参加したり勉強会も独自に行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	エプロンの交換、手指の消毒、調理用具、布巾等の消毒。当たり前な事をまめに行い食材も新鮮な内に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者の皆さんと季節の花を建物周辺の配置している。又、季節の野菜も育てている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう季節にちなんだ物を皆さんと創作し、壁に飾ったり、又、道端や土手に咲いている花をとってきて生けたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんそれぞれ坐りなれた場所で会話を楽しまれたり、新聞を読まれたり居室でウトウトされたり思い思いに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自分で折られたり描かれた物を貼られたり、お人形やマスコットを並べられたりされている。写真やお位牌等もお持ちになっている。		思い思いの場所に荷物を置かれている。やむを得ず移動や荷物を置かせて頂く際は必ずご本人やご家族様の許可を頂いている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	不必要なエアコン使用はせず、冬は湯たんぽ使用を継続、夏場はひきこもり防止につながっている。		冬場だからこそ換気の必要性は感じているが、どうしても上手にやれていない。こまめな換気を行なう。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状の身体機能はどこまでなのかを把握し、転倒等のないよう物音等には神経を集中させている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自分でやれることはやって頂きなるべく見守る事になっている。荷物をちらかされても危険がなければ自由にしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には花や野菜と一緒に育て、水やり、収穫を楽しんでいる。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

パーソンセンタード・ケアを最大の理念に考え、その方への思いをしることから、気づきを見つけるような支援心がけています